特命子ども地域アクター養成アクション

子どもと大人がともに地域に参画し合う社会基盤構築を目指して

かながわ子どもの地域社会参画推進会議

ティーンがまちをつくる
特命 子ども 地域アクター プロジェクト

事務局となっているNPO法人ミニシティ・プラスについて

NPO法人ミニシティ・プラスでは・・・
子どもたちが自主的に仮想のまちを創るプロジェクト
「ミニヨコハマシティ」を2007年から行なっています

ミニヨコハマシティは、19才以下の子どもたちが、
大人口出し禁止で自由な発想で創るまちです。
子どもたちは、まちで働き、ミニヨン（通貨）を稼ぎ、
遊んだり、食べたり、また働いたりします。

NPO法人ミニシティ・プラスの理念

私たちミニシティ・プラスは、
「まちはそこに暮らす人、かかわる人たちで創り上げていく」という理念から、
まちの中で暮らす人が「まちについて知り」「まちのことを想い」「まちにかかわる」
ために有効な事業をしていきます。

特に未来を担う子どもたちが、
自由な発想で社会について知り、体験し、考えるチャンスをつくり、
その中で自分らしさが活かせる生き方を自分の力で見つけられるように促していきます。
また、「まちづくり」を通して、大人も子どもも、
「生まれてきたすべての人が社会の大切な一員であることを互いに認めあい、
助け合ってこそより良い社会がつくられる」ということを、
楽しみながら学んでいくことを目指します。

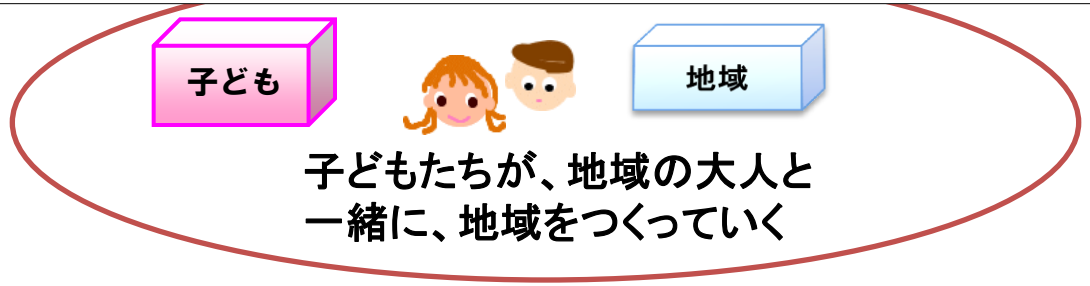
特命子ども地域アクターとは？

- この提案のモトとなった**「神奈川県青少年問題協議会」**では、子どもの視点から意見や提案をもらうため、**平成23年度に「特命子ども委員」を募集し、8名の中学生・高校生が審議に参加**している。

- この「特命子ども委員」は平成23年度末に任期が終わるが、希望があれば、**継続して参加し、まちづくりの現場でも活躍してもらいたい。**

- さらに、県内の子どもたちに**「特命子ども地域アクター」**への応募を広く呼びかけ、**24年度は30名の子どもたちと一緒にまちづくりに取り組んでいきたい。**

将来、目指す姿を「特命子ども地域アクター」が先行的に実施する



現状と課題

子ども

本来、自由で主体性をもった子どもたちのはずなのに・・・

家、学校、塾だけを行き来する**専業子ども**が増え、多様な人とのコミュニケーションが取れていない。

地域の中で遊んだり、暮らしたりできていない。

主体的でない、社会性がない
→**ニートひきこもりの問題**

地域

自治会町内会、公園愛護会、地域活動、ボランティア団体の**高齢化、固定化**

子どもたちが関わるときには「お客さま」や「若い労力」「にぎやかし」だけで、子どもたちの満足度が低く、
地域活動に定着する
次世代育成ができていない。

本来つながっているはずのものが切れている

目指す姿

例）

・自治会町内会主催の防災訓練に企画会議から参加

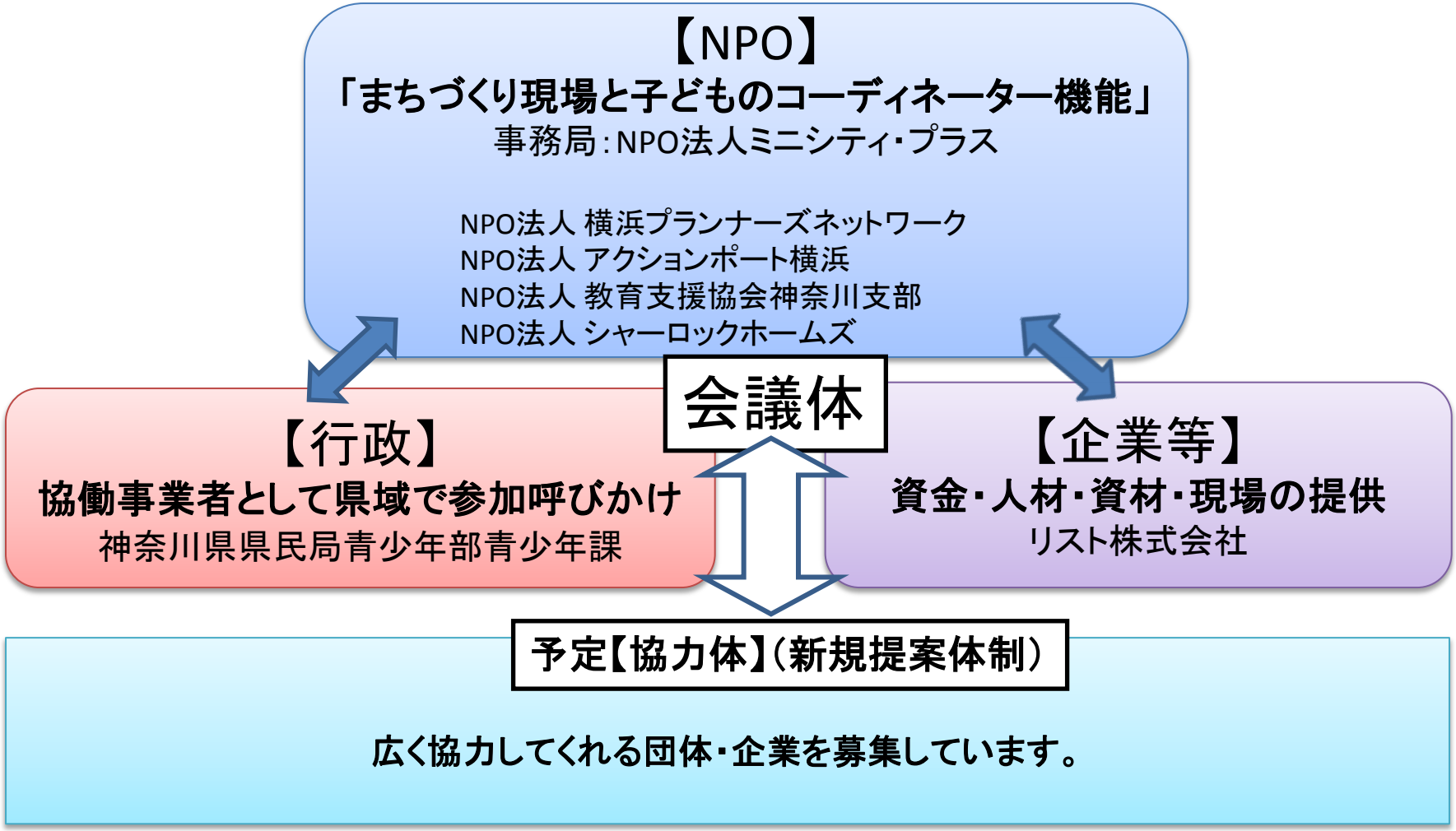
・地元のイベント、お祭りなどへの子どもたちの企画提案実施 → 子どもたちが参加したいものになり活性化していく

・地域まちづくり協議会などに委員として参加 → 子どもの視点からの意見を聞くことができる

・公共施設の運営委員会などの一員として参加

→ 地域のまちづくりで、将来の重要なアクターとなっていく

事業主体となる会議体及び協力体を設置します



事業内容の3つの柱

1.「特命子ども地域アクター」の募集・養成

・特命子ども地域アクターの募集
・子ども会議の定期開催
・まちづくり「いろは勉強会」

2.「特命子ども地域アクター」の派遣

・顔合わせ会議を経て、派遣先を決定
・特命子ども地域アクターの派遣（7月～10月）

3.「子ども地域社会参画フォーラム」の開催

・12月2日フォーラムでの成果発表
・フォーラムの企画もこどもアクターが行う。

→会議体、協力体で構成する連絡会を組織して実施

25年度以降も会議体＆協力体を継続させていくネットワークづくりをしていく。

1-1.「特命子ども地域アクター」の募集

特命子ども地域アクター募集

- 対象
  - 中心は中高生。
    ただし、一人で行動できる
    意欲的な小学生高学年も含む
- 人数　30人程度
- 任期
  - 平成24年4月～平成25年3月
- 3月21日当日消印有効

ティーンがまちをつくる
特命 子ども 地域アクター プロジェクト

http://actor.minicity-plus.jp/

2.「特命子ども地域アクター」の養成

特命子ども地域アクターへ、まちづくりの「いろは勉強会」
を、横浜市立大学とのタイアップで行います

第１回　まちづくりとはなにか～都市づくり・まちづくり・ひとづくり～
第２回　多様なまちづくりが展開するまち「ヨコハマ」
第３回　クリエイティブなまちづくり～横浜都心部活性化への挑戦～
第４回　安全・安心のまちづくり～横浜中間郊外地域の取り組み～
第５回　自分たちのまちについて考えてみよう（ワークショップ形式）

上記の内、1回目と最終会を含む3回受講を必須。
それ以外は編集されたビデオをウエブ上で見てレポートを
書いてもらいます。

最終回の5回目の6月24日午後に顔合わせ会議を開催します。

3.「特命子ども地域アクター」の派遣

- 6月24日午後、ヨコハマ創造都市センターで子どもアクターとの顔合わせ会議
- 7月～10月　まちづくりの現場への派遣
  （1団体3日間～5日間の派遣をイメージ）
- 12月2日　「子ども地域社会参画フォーラム」（主催：神奈川県）での成果発表
- 次年度につなげていく・・・会議の継続開催

3. 12月2日（日）「子ども地域社会参画フォーラム」の開催

特命子ども地域アクターの存在や活動を広く知ってもらうためのフォーラムの開催

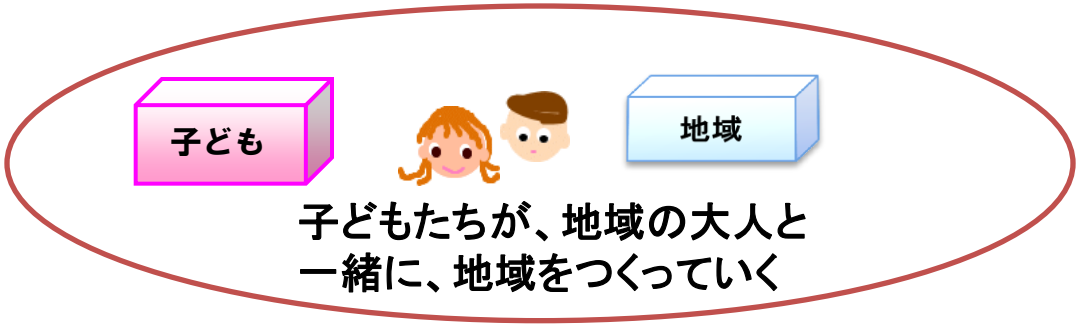
例）今の子どもたちに社会やまちづくりについて聞く「U-19シンポジウム」

例）子ども先生による「大人の学校」

例）子どもによるお祭り開催

25年度以降の事業イメージ

会議体、協力体で構成する連絡会を継続的につくる
- 事務局はNPO法人ミニシティ・プラスが担う
- 特命子ども地域アクターの継続的な活動
- まちづくりに深く関わる企業からの支援や連携



子どもの社会参画モデルとしてまちづくり以外の分野への広がり

未来

特命子ども地域アクターが、まちづくりの担い手になり、後輩を育てていく・・・
自然に子どもたちがまちの中で活動する基盤ができる

子どもと大人がともに地域に参画し合う社会